共に考え 動き出す子
～ＮＩＥ事業を活用して～

上越市立保倉小学校

１　学校の概要

保倉小学校は頸城平野の東に位置し、旧東頸城郡地域の入口にあたる。学校の周りには大きな田んぼが広がっており、稲刈りが終わった田んぼには食べ物を求めて白鳥が群れで訪れる。そのため「白鳥の学校」とも呼ばれている。４年生は地域の方々と一緒に、晩秋に訪れる白鳥の餌となるマコモダケを栽培し、上吉野池に移植する活動を続けている。

３年生は、青野地区の伝統芸能「剣の舞」を学び、毎年学習発表会で披露していた。また、地域の方々のご指導の下、アトランティックジャイアントという品種のジャンボカボチャを育てている。地域で催されるコンテストに出品し、毎年賞をいただいてきた。大きく育ったカボチャは８０㌔㌘を超える。

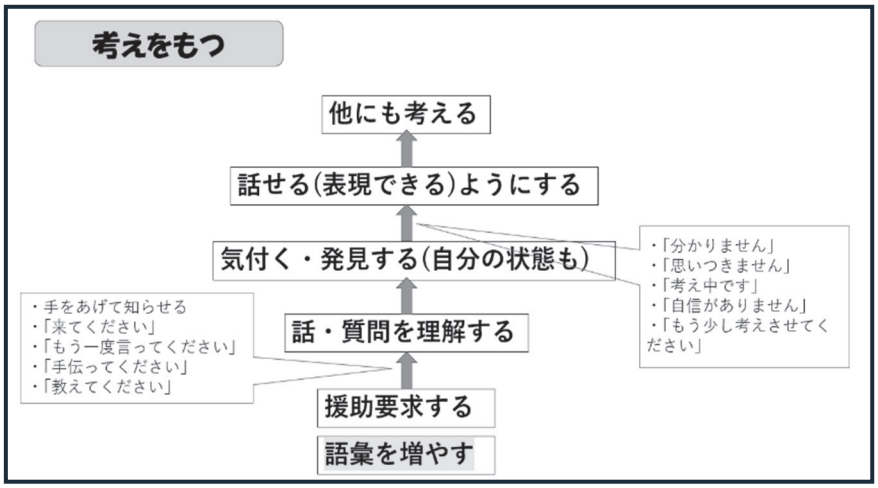
６年生は１０月に「おひさま祭り」を開催した。天気にも恵まれ、たくさんのお客様に来場いただいた。６年生の総合的な学習のテーマ「地域貢献」の実現を目指し、保倉地区を元気にするために、計画、開催にこぎつけた。

保倉小学校の子どもたちは地域の方々の温かい支えの下、元気にすくすくと成長している。

２　ＮＩＥ実践のねらい

当校は、「共に考え動き出そう」を合言葉とし、研究主題を「共に考え動き出す子」と定め、研究を進めてきた。難しい課題も、周りの友達と一緒に考えることで、「やってみよう」「できそうだ」と意欲をもって学びに向かう姿を目指している。

３年次までの研究で明らかになったことは、「共に考え動き出す」ためには、「自分の考えをもつ」ことが大前提であり、「考えをもつ」ための基盤は「語彙力」にあることである。語彙力不足のために、問われていることが分からないという実態がある。更に、話し合いの力が弱いために、自分の考えや気持ちをうまく伝えられずに友達とトラブルになってしまう姿も見られる。語彙力を高め、話し合いの経験を積むことは、当校の大きな課題である。



上記のことから、今年度のＮＩＥ活用のねらいは、新聞を活用して活字に触れる機会を増やし、語彙力を高めることである。

３　本年度実践の概要

（１）環境整備（児童が新聞にふれる場と時間の設定）

① ＮＩＥコーナーの設置

全児童が通る職員室前の廊下にＮＩＥコーナーを設置し、子ども新聞（２社）の閲覧コーナーを設けた。廊下の壁や掲示板には、児童が作成したオリジナル新聞やＮＩＥタイムの成果物、保倉小学校に関係する記事を掲示した。また、新潟日報の「キラキラきらり」や毎日子ども新聞の「くれよんきんぐ」に応募する児童がいた。

２学期までのＮＩＥコーナーは立ち読み形式であったが、「子どもたちが憩いながら新聞に親しむ場を作りたい」という職員の願いが強くなり、３学期から座って新聞を読むことができるＮＩＥコーナーを校内の一角に作った。以前より新聞に興味をもち、読んでみようとする様子が見られるようになった。

② ＮＩＥタイムの設定

月に２回、朝の時間をＮＩＥタイムと設定し、各学年が新聞に親しむ時間を設定した。ＮＩＥタイム以外にも、教科における新聞活用の可能性を探った。「学力を高める新聞遊び」の本やふむスタアプリを活用したりして、各学年で工夫して取り組んだ。学年で取り組んだ内容は以下のとおりである。

学年	取り組み内容
１年生	ひらがな探し・見つけたひらがなで言葉作り・カタカナ作り
２年生	ひらがな探し・漢字探し
３年生	漢字の部首探し、新聞コレクション、新聞しりとり
４年生	見出しクイズ・新聞しりとり
５年生	新聞読み聞かせ、あなたはどう考える？
６年生	新聞しりとり・「の」の字リレー・学校自慢クイズ

下学年は楽しみながら文字や写真を探す活動、上学年は新聞記事を読んで自分の考えをもつ活動に取り組んだ。興味をもって活動する姿が多く見られた反面、文字量の多さに難しさを感じてしまい、ＮＩＥと聞いただけで苦手を感じてしまう児童も見られた。今後、ＮＩＥタイムの活動名や活動方法を学校全体で再検討していく必要があるという課題も明らかとなった。

（２）新聞理解・ＮＩＥに関する職員研修の充実

① 講師を招いての研修の充実

ＮＩＥの実践を積み重ねていくためには、①新聞理解の場②ＮＩＥに携わる先生方からの実践談を聞く場③校内職員の実践を共有する場が必要であると考えた。今年度は５つの研修の場を設定した。

研修を通して、新聞は何人もの人の力によって、正確な情報を伝えるために作られていること、授業のツールの一つとして新聞が活躍する可能性が大いにあることを学ぶことができた。新聞を授業や日々の活動に取り入れていこうとする職員の意識を高めることができた。

実施日	研修内容	講師
６／３	新聞の読み方講座	木村　隆　様 （新潟日報社　読者局）
６／１８	６年生提案授業ご指導 ＮＩＥ実践について	泉　実　様（ＮＩＥアドバイザー） （上越市立　浦川原小学校校長）
７／２５	新聞を日常活動に １学期実践共有	堀川　瑛里那　様（ＮＩＥリーダー） （糸魚川市立　糸魚川小学校教諭）
７／３１	新聞の書き方講座	木村　隆　様 （新潟日報社　読者局）
１２／２３	２学期実践共有	

② 職員が新聞作成に挑戦

「ふむスタアプリ」を教師がモニター利用することができた。今年度は学校新聞　を作成やＮＩＥタイムで提示する課題選定のために利用した。

「クミハン」という新聞作成コンテンツが大変使いやすかった。少しの時間で簡　単に新聞を作成することができた。２学期から、毎月１号ずつ各学年の特集新聞を発行している。他の学年がどんな活動をしているのか、異学年理解のための一助となった。

四年生新聞　2026年(令和8年)1月8日[木曜日]

四年生新聞

発行者　学校名　保倉小　名前　金子

ゴミ拾いで地域をきれいに
～保倉キラピカ大作戦～

まさかテレビが・・！

総合で環境をテーマに学んでいる四年生は、様々な環境問題について調べてきました。活動が進んでいくうちに、「自分たちもゴミ拾いをして、環境を守りたい」という思いが強くなっていったそうです。

十月には、直江津の海岸でゴミ拾いを行いました。たくさんのゴミを拾った四年生は保倉の地域もきれいにしたいという思いをもつようになりました。

六年生も、貢献をテーマに学んでおり、保倉の地域をきれいにしたいという声が出ていました。そこで、四年生と六年生とで話し合い、「保倉ハッピーキラピカ大作戦」を行うことにしました。

実際に出かけてみると、空き缶やペットボトル、タバコのすいがらなどがたくさん見つかりました。

「なんでこんなところにポイ捨てするんだろう？」と腹立たしく感じている子もいました。

一番驚いたのは、国道に捨てられていた古いテレビです。特に草むらで目立たないところにゴミが多く落ちていました。

ひまるん大活躍

四年生のマスコットキャラクター

四年生には、ひまわり学年にちなんだマスコットキャラクターがいることをご存知だろうか。名前はひまるん。二年生の時に誕生したキャラクターだ。ここで少し、ひまるんの紹介をしていく。

①好きな飲み物は水
②好きなことは大掃除
③得意なことはお花と遊ぶこと

学習発表会では、ひまるんが大活躍した。ひまるんが冒険しながら、環境問題について私たちに教えてくれたのだ。多くの人をひきつける素晴らしい発表だった。

岩佐先生によると、発表のシナリオも小道具も全てひまわり学年のこどもたちの手作りだという。「あの発表をみんなで作り上げるとは、素晴らしいチームワークである。

あとがき

担任の岩佐先生はひまわり学年四年生について「とても元気がありクラス。休み時間になると、みんなで体育館に行って遊ぶところがすてきだと思います。」と話していました。

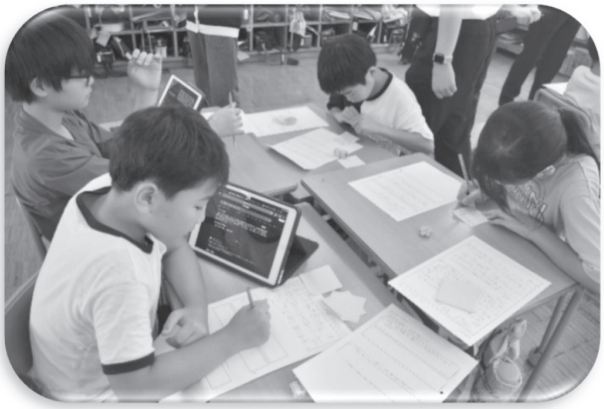
クラスをもっと楽しくしようとするアイディアがたくさん出て、みんなで協力してやり遂げようとする四年生。高学年になってからの活躍がとても楽しみです。

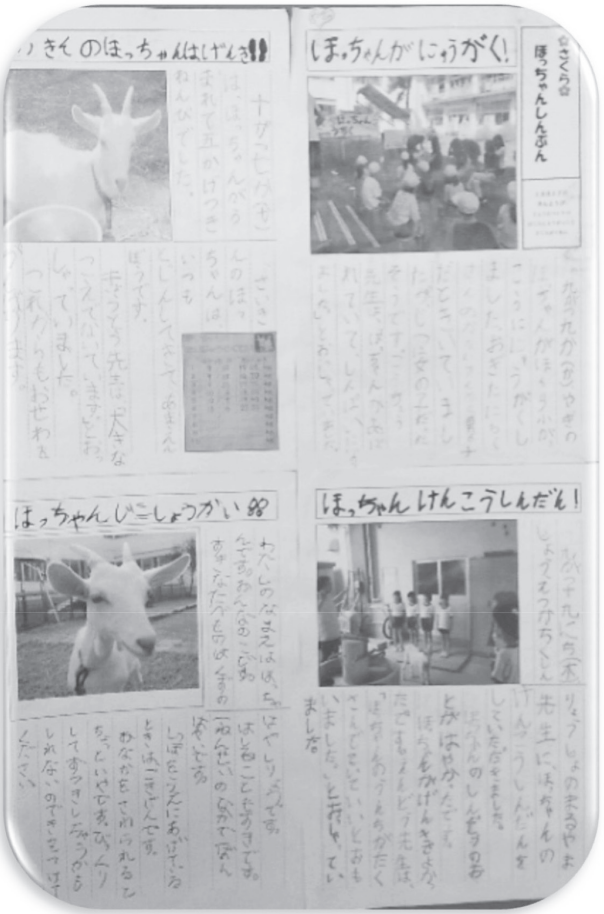
③ 授業実践

「やってみよう」「できそうだ」と意欲をもって学びに向かう姿を目指し、授業公開を行った。今年度は、授業においてＮＩＥを積極的に取り入れ、授業者自身がＮＩＥ活用の可能性を探る期間と位置付けて実践をした。

実施日	学年	公開授業
４／２４	６年生	理科「物の燃え方」
６／１８	６年生	国語「言葉の貯金箱」
９／１６	４年生	国語「新聞を作ろう」
９／１８	３年生	人権教育・部落問題学習 「本当の事って何だろう」
１０／２８	５年生	国語「よりよい学校生活のために」
１２／１５	おおぞら１組	自立活動「お話タイム～新聞コレクションを紹介しよう～」
２月	１年生	国語「もののなまえ」

（金子　千恵）





４　実践例

（１）５年生　国語「よりよい学校生活のために
～持久走が楽しくなるアイディアを考えよう～」　授業者：荏戸　翠

① ねらい

持久走練習が楽しくなるアイディアについて、互いの考えのよさを見つけながらそれぞれの案が実現可能であるかを話し合う。

② 使用した新聞記事

「速く走れなくてもいいんだよ　子の意欲高める自由さ訴え」

中日新聞　西三河総合　２０２５年７月８日

③ 主な手立て

ア　単元の初めに、新聞記事を活用する

紹介した新聞記事は、校内マラソン大会に対する消極的な声を取り上げたものである。持久走大会に意欲的である本学級の児童がこの記事に出会うことで、「どうして嫌いと感じる人が多いのだろう」という疑問をもったり、「保倉小学校ではどんな声があるのか調べてみたい」という関心をもったりすることにつながるようにした。また、実際に自分たちでアンケート調査を行い、保倉小学校の実態を明らかにした。自分たちで情報を集めることで、新聞記事で得た情報を自分たちの生活と結びつけて考えていこうとする意欲を高めた。

中日新聞 2025年7月8日(火) 西三河総合 (第3種郵便物認可)

100㍍マラソン元日本代表、愛知学泉大講師

高田さん ランニング授業の本出版

速く走れなくてもいいんだよ

子の意欲高める"自由さ"訴え

子どもたちにランニングを好きになってもらうには―。教員や保護者のそんな悩みを解決しようと、100㍍マラソン元日本代表で、愛知学泉大（岡崎市舳越町）講師の高田由基さん(41)＝体育科教育学＝が著書「持久走・長距離走の授業革命」（大修館書店）を出版した。「速いことだけが価値じゃないと伝えたい」と話す。（高木健吾）

手頃な運動として世代を問わず人気のランニング。ただ、高田さんは小学校教員や出前授業の経験から「学年が上がるにつれ、嫌いな子どもの割合が高まっている」と指摘する。課題は「タイムに重点が置かれ、苦手な子にとっては『きつくてつらいだけ』になること。シンプルな種目ゆえに、教員、子どもたち双方に楽しみ方がいまひとつ理解されていない現状を感じたという。

全国の体育教育の専門家らと共著した著書で、高田さんはランニングの自由さを実践例を交えて訴える。例えば、教員が設定する距離や時間、コースを子どもたちに考えさせることで、「嫌々やらされる」意識からやる気を引き出す。1人で黙々と走ることが是とされがちだが、仲間同士のつながりを作り、一緒に取り組む形を用意することも有効だという。

近年は生涯スポーツとしてランニングの価値が見直されている。高田さんは「無限にあるランニングの楽しみ方を知ってほしい」と期待を込める。

A5判232ページで、税込み2640円。全国の書店などで販売している。

著書を手に「ランニングの楽しみ方を知ってほしい」と話す高田さん＝岡崎市舳越町の愛知学泉大で

イ　話合いのポイントの提示

結論を求めるだけでなく、話合いのスキルを高めることを意識づけた。

ウ　いいねシールの活用

相手の考えを尊重し、互いに高め合えるようにする。

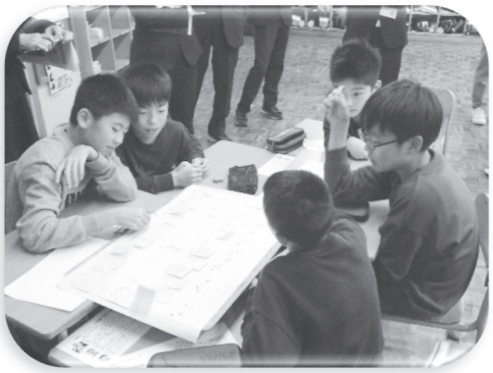
エ　「条件チェックリスト」の活用。

それぞれの考えが実現可能かどうかで分類することで、一つの結論にこだわらず、全ての意見を尊重できるようにした。

（２）授業の実際

・校内マラソン大会に関わる新聞記事を扱うことで、自分たちの生活に関心のもてる学習課題を設定することができた。新聞を扱うことは、根拠のある意見を取り扱うことであり、高い意欲を持続して学習に取り組むことにつながった。

・児童の振り返りの中に「今までで一番よい話し合いができた」という振り返りがあった。条件チェックシートの活用もあったことで、それぞれの意見が実現可能かという視点で落ち着いた話し合いができていた。



・公開授業後、さらに吟味し、①持久走記録会への心のもち方を呼びかける②コースに看板を設置する③全校にメダルをプレゼントする３つの作戦に取組もうと決めた。準備期間は５日という限られた時間ではあったが、全校児童の声に応えたいという思いをモチベーションにし、一生懸命に準備を進めた。持久走記録会後には、他学年からたくさんのお礼の言葉が届いた。また、以前よりも走ることに前向きな気持ちになれたと感じた児童がいることを知り、児童は大きな達成感を得た。１学期の児童アンケートの結果では、自分の考えを発表することに消極的な児童が多かった。しかし、一つの新聞記事をきっかけに、身近な課題を自分事として考え、真剣に話し合う姿が見られた。また、授業者にとっては、学習内容や児童の実態に合う新聞記事の取り上げ方を考える中で、より効果的な活用の仕方について深く考える機会となった。今年度の成果を来年度に生かし、さらに効果的な活用を進められるように取り組んでいきたい。

（荏戸　翠）

５　成果と課題

（１）成果

・各学年の発達段階に応じた新聞活用により、言葉への関心や表現力の高まりが見られた。低学年では切る・貼る活動を通して文字への興味が育ち、中学年では漢字の気付きや要約力、読み比べる力が身に付いた。

・国語科を中心に、新聞を根拠として考えをまとめたり伝えたりする力が向上した。高学年では、時事問題に関心を持ち、自分の意見を形成する姿が見られ、新聞への抵抗感も軽減した。

・特別支援学級では、新聞作りや新聞記事のコレクション活動を通して自己理解や他者理解が深まり、児童同士の自然な対話が生まれた。また、４年生では、授業での新聞作りが係活動などの学級活動へとつながり、より身近で親しみのあるものとなっていった。

（２）課題

・今年度、ＮＩＥを活用した授業は国語科が多かった。他の教科でも活用できないか研究を深めたい。どの教科でも活用できる可能性を広げたい。

・新聞への興味を高めることができた反面、文字の習得に困難さをもっている児童や情報量の多さから理解に難しさを感じる児童がいた。抵抗感を少しでも和らげ無理なく楽しめるようにしたい。環境を整備し、より自然により身近になる内容を職員で吟味していく必要がある。ＮＩＥタイムの活動名や取組方法の検討が必要である。今年度は新聞紙を主に使用したが、新聞紙を使わずに新聞と親しむ方法も探りたい。

（金子　千恵）